

令和6年4月 番組審議会議事録

株式会社び〜びる

2024年4月18日

作成：放送部 丹野俊

## 令和6年4月番組審議会 議事録

- 日 時 令和6年4月18日(木) 10:30~11:30
- 会 場 株式会社ぴ〜ぷる 大会議室
- 出席者 委員長 栗原 宣康 (唐津市教育委員会 教育長)
- 委 員 中武 友子 (唐津地域婦人連絡協議会 副会長)
- 松田 毅 (佐賀新聞 唐津支社長)
- 森 千晶 (唐津市政策部 広聴広報課 課長)
- 山口 ひろみ (唐津市子育て支援情報センターセンター長)
- 山下 正美 (唐津商工会議所 専務理事)
- ぴ〜ぷる 中村 隆 (代表取締役社長)
- ぴ〜ぷる 山下 善史郎 (取締役常務)
- ぴ〜ぷる 亀井 信一 (取締役放送部長)
- ぴ〜ぷる 松尾 卓 (放送部課長)
- ぴ〜ぷる 丹野 俊 (放送部)
- 欠 席 委 員 木村 剛 (唐津青年会議所 青少年交流委員会 委員長  
/ (株)渚館きむら 代表取締役)
- 委 員 宮崎 吉輝 (玄海町議会議員)
- 退 任 委 員 石崎 有希子 (唐津市政策部 広聴広報課 課長)
- 委 員 宮崎 吉輝 (玄海町議会議員)
- 新 任 委 員 森 千晶 (唐津市政策部 広聴広報課 課長)

※敬称略。委員は50音順

## ■. 株式会社ぴーぷる社長 挨拶

新年度に入り 4 月とは勢いづく月でもあるが、年末に近い気ぜわしい時期であり、コロナの感染がまだ出たりと心身の管理・コントロールが続いていると思います。みなさん普段から番組を見てくださってありがとうございます、普段はいい話（意見）しか入ってこない状態でもある。ぜひ心の底から意見を聞かせていただきたい。

## ■. 番組審議委員長 挨拶

新たな委員を迎えてのスタートです。今日はみな様からそれぞれ意見をいただき、ぴーぷる放送の番組がさらによくなるように力を合わせていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

## ■. 委嘱状授与

森 千晶（唐津市政策部 広聴広報課 課長）※新任

### 番組審議委員 新任挨拶

責任の多い委員を受け持つことになり、戸惑う部分もあるが、ぴーぷる放送の番組は家族揃って毎日見えています。そのような番組の審議委員となり光栄に思います。行政放送とぴーぷる放送は似ていますが、役割が違うと思います。そのあたりを意識しながら意見を言えればと思いますので、よろしく願いいたします。

## ■. 番組審議（下記対象番組）

### 審議主対象番組①

#### 保利耕輔氏追悼番組『映像が教えてくれた保利さんのまなざし』（53分）

【初回放送】2024年1月11日 【制作】松尾 卓ほか

他局や他のメディアとは違う、ぴ〜ぷる放送ならではの追悼番組として何ができるかを考えました。保利さんはニュースだけでなく、新春のご挨拶・対談・国政報告など、ぴ〜ぷる放送のさまざまな番組に出演していただいていたので、その豊富なアーカイブ映像を活用して保利さんの功績、人柄を市民（保利さんを知っている人・知らない人）に知ってもらうことを目的に制作しました。

また、出演者も保利さんを身近に見てきた方を選び、保利さんを知っている人だから話せる内容で静かに追悼するだけでなく、明るく・やさしく振り返る番組を目指しました。

ぴ〜ぷる放送の先輩たちが番組を制作し残してくれていたからこそできた今回の番組。唐津を映像に残し・未来につなげるという、ぴ〜ぷる放送の意義の一つ（映像資産）を再確認しました。

※番組は全2時間ですが、DVDには番組後半放送の保利さんの功績と足跡をたどる『保利耕輔氏 三十五年の足跡』（全4章・2015年放送）のダイジェスト部分は省略し、約53分で収めています。

### ●主対象①保利耕輔氏追悼番組『映像が教えてくれた保利さんのまなざし』

#### 意見（要約）

中武：保利さんと面識がなく、なぜ保利さんだけを取り上げたのか？と思いながら番組を見ていたが、番組内の保利さんの功績を手取るようわかったので、この企画は成功だと思った。

山口：一番思ったのはMCの思いが伝わってきて涙した。映像という記録が大事だなと番組を通して思いました。昔の唐津の映像など、記録を撮っているからこそ出来た番組で、自分たちや若い世代にも見てほしい番組だと思った。

松田：30年前の肉声を交えて伝えられるのは映像の強み。当社でも保利氏の連載を行ったがやはり映像の記録は強いと思った。現在では難しいが1人の政治家を主人公とした番組はエリア放送ならではのコンテンツかと思う。私は唐津出身ではなかったので、保利さんの功績をたどる部分では地元に住んでいる人向けで、もう少し説明がほしかった。

山下：主人公の保利氏とほかの唐津の懐かしい面々の著名人が出演しているのも印象に残った。今では1人の政治家を取り上げるのは難しいと思う。番組尺が53分もあったが早送りをすることなく最後まで見る事ができた。

森：番組を作った目的が主人公保利氏の功績・人柄を市民（保利さんを知っている人・知らない人）に知ってもらうことを目的に制作しました。とあったが、自分の知らないことが多く、親しみを感じた。自分たちのふるさとに、こういう人がいたんだという知るきっかけになった。一方で今は制作が難しい（政治家をフォーカスした）番組だと思う。放送も市民葬の直前でタイミングよかったと思う。唐津の変化も映像を通して見る事ができ興味深い番組でした。

栗原：MCの主人公保利氏に対する思いが現れていてよかった。番組制作の狙いであった保利氏の人柄が出ていた。膨大なアーカイブから映像を拾い上げるのも大変だったと思うが、要所要所たくさん盛り込まれていた。

## 審議副対象番組 ①②

### ●副対象①『からとび』（15分）

【初回放送】2023年12月14日 【制作】富永ほか

この日は「中野陶痴窯 唐津焼干支作り」、「唐津上場商工会女性部 保育園にタオル寄贈」の2本と、「特集：手つかずの被災農地復旧へ」を放送。特集では、去年7月の九州北部豪雨で被災した七山で、被災後手つかずになっていた農地の復旧を目指した野田宗作さんを取材。地域おこし協力隊として3年前七山に移住した野田さんが、これまでお世話になった農家の皆さんへ恩返しをしようと立ち上がり、その思いに賛同した延べ100人以上のボランティアスタッフと手を取り合い、復旧にあたる様子を紹介しました。昨年度は25件の農地の復旧が完了。今後も行政と連携を取りながら復旧にあたる姿を継続取材予定です。

### ▶副対象① 「からとび 2023年12月14日放送分」の意見（要約）

森：中野陶痴窯の唐津焼干支作りを見て、時期的なものを感じた。断られたかもしれないが、作陶家の声もあるとよかったと思う。特集の方では7月の被災による復興状況を12月に放送することで風化することなく、復興の動きや人が見えた。継続取材ということで、行政放送とは違い、長期にわたりまとめて伝えられることも意味があると感じた。

山下：特集で出てきた野田さんは商工会議所としても注目していた人でした。七山はほかにも外部（県外）から来た人の活躍が見受けられる。

松田：当社としても特集で取り上げた野田さんは取材しています。こういう県外から来た人が地域に元気を与えているところが伝わっていた。人と人のつながりの大切さやそれが地域の力になることが伝わった。

山口：地域の知らない団体や活動が番組を通して伝わった。活動に対してより深い行く先の紹介があるとよりいいと思った。特集に関しては7月の災害を12月に放送することによって風化させてはいけないという意味でもよかった。

栗原：12月に7月の災害の復興・取り組みを取り上げることが印象に残った。土砂災害の様子がリアルに捉えられていた。そこにボランティアのつながりも見られて嬉しく思った。

## ●副対象②『第 76 回東西松浦駅伝大会』（28 分）

【初回放送】2024 年 3 月 10 日 【制作】中西・吉原彩花

今年 1 月 28 日に開催された「第 76 回東西松浦駅伝大会」に出場した玄海町スポーツ協会チームの大会に対する想いや大会当日の様子を放送。番組では、今年新設された「ふるさと選手」枠で出場する玄海町出身の選手 2 人にスポットをあて番組構成を行いました。かつては常勝チームだったが、前回大会ではシード権を逃した玄海町スポーツ協会チーム。今大会は「シード権獲得」をチーム目標に掲げ、取り組む監督・選手らを追いました。

### ▶副対象② 「町長報告番組」の意見（要約）

山下：ことし新設された「ふるさと選手」の説明が逆に疑問を生んだ。玄海町ほかのチームにはその制度が無かったのか？など、ふるさと選手が地域単位のチームではあるが、実業団など企業チームではそれが無いのかが気になった。もう少しふるさと選手の説明があるとよかった。

山口：玄海町の人たちは駅伝大会を楽しみにしている人が多い。映像で大会を振り返ることができてよかったと思う。選手にフォーカスを当てて県内 1 周駅伝とつながる取材もしてみると面白いと思う。

森：知り合いが走っていたので、現地に応援に行った。身近な人が走っていて応援したい気持ちになる。駅伝は参加する年代が幅広いので、身近にいるすごい人たちがいることも伝わるので来年も取り上げてほしい。

中武：駅伝の番組は漠然とみることが多いが、応援している人にも知人が映り、（地元の）人を見る楽しさがある。番組で出てくる人と撮影のポイントが楽しみだった。

松田：選手一人一人が出てきて、その思いなど伝えることができていた。県内のロードレースでは古い大会であって、地域の支えがあって出来ている部分もある。駅伝に限ら過疎化・少子化による競技人口の減少問題もあるので、メディアとして伝える側の役割も問いつめないといけないと思った。

栗原：ふるさと選手の 2 人を追いながら、レースの全体の流れの勝敗をうまくとらえていた。駅伝は一瞬で撮影が難しいが、走ってくる長く選手を撮れるように工夫されていると感じた。過去の玄海町の優勝シーンの映像があり、今の玄海町チームでまたシード権を勝ち取ろうと戻ってきた、ふるさと選手たちのストーリーが伝わった。

## ■退任挨拶

中武：緊張ながら審議をすることもあったが、委員になってからピーぷるをよく見るようになった。ほかの委員の方とも顔見知りになれたところではございましたが、短い期間、委員としてお世話になりました。ありがとうございます。

## ■.次回番組審議会について

次回番組審議会の開催日については8月を予定。改めてご案内いたします。

## ■閉会